



未来の地球のため
私たちができること

学校法人 郡山開成学園

環境経営レポート 2020

対象期間 | 2019年1月1日～2019年12月31日



環境省
エコアクション21
認証番号0000091



CONTENTS

I. 郡山開成学園 環境方針

環境理念、環境方針	1
-----------	---

II. 郡山開成学園の概要

II-1 法人名及び組織	2
II-2 所在地	2
II-3 環境管理責任者及び事務局	2
II-4 学園規模	2
II-5 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要	3

III. 郡山開成学園における環境マネジメント

III-1 環境パフォーマンスとその関連要素	4
III-2 環境への取組分野	4
III-3 環境への負荷とその関連要素	4
III-4 環境マネジメントシステム	5

IV. 環境目標及び環境活動計画

IV-1 2019年～2021年中長期環境目標	6
IV-2 2019年環境活動計画	7

V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況	
(1) 環境負荷の対前年詳細比較	8
(2) 環境目標の達成状況評価	9
(3) 取組結果の評価	9
(4) 代表者による評価と見直し	9
V-2 トピック	10
V-3 各部門の取組み	11～16
V-4 緊急事態対応	16
V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動	17～18

VI. 次年度の取り組み

VII. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

VIII. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査	20
(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	21
(3) 外部評価	21

I. 郡山開成学園環境方針

学校法人郡山開成学園 理事会承認
2002年 9月12日制定
2017年 7月28日最終改定

環境理念

学校法人 郡山開成学園は、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と持続的に発展可能な循環型社会の構築に寄与するため、全学挙げて環境保全活動に積極的に取り組む。

環境方針

1. エコマインドを持った学生・生徒の育成並びに関連教育研究の推進



環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生・生徒の育成が急務であることから、人類の福祉及び地球環境保全に貢献できる人材を育成し、また、これらに関わる教育研究活動を行う。

環境マインドを持った学生、生徒を育てます。

環境意識向上

2019年度目標

「社会の中で率先して環境問題に取り組む人づくり」を目指す。
各部門において、環境マインドを高める為の取組を推進していく。

2. 教育研究活動における環境負荷の削減



教育研究活動にともなう環境負荷を低減する目標に向かって、全学を挙げて、省エネルギー、省資源、廃棄物の抑制と再資源化などに積極的に取り組む。

CO₂ 排出量を削減し地球温暖化にブレーキをかけます。

CO₂ 排出量
1.0% 以上削減

2019年度目標

年間 12t の CO₂ 排出量削減を達成します。

ゴミを減らすのではなくゴミを出しません。

ゴミ排出量
2.0% 以上削減

2019年度目標

年間 1.0t の一般廃棄物削減を達成します。

水や紙を大切に使う心を育てます。

水使用量
1.0% 以上削減

2019年度目標

年間プールの一杯分 (335ml) の水使用量削減を達成します。

紙使用量
1.0% 以上削減

年間コピー用紙 120kg相当の紙使用量削減を達成します。

3. 法規制の遵守



環境関連の法規制を遵守するとともに、環境汚染の予防を図り、自然環境の保全、再生に協力する。

4. 環境関連情報の公開とコミュニケーションの推進

環境理念、環境方針、環境目標、環境活動計画及びその実績等の環境関連文書やホームページ等を通じて、学内の学生、生徒、教職員や一般社会へ積極的に公開する。

5. 地域貢献



環境分野に関するボランティア活動（日本環境協会主催のどんぐりプロジェクト及び、郡山市主催のゴミゼロキャンペーンへの参加、空間放射線量や食品中に含まれる放射性物質の測定、包括連携協定を締結した市町村等との連携活動、並びに学園施設の一般開放等）を通じ、地域に貢献する。

地域貢献

地域から
愛される学園へ

2019年度目標

環境分野に関するボランティアや包括連携協定を締結した市町村等との連携活動を通じ、地域へ貢献する

Ⅱ. 郡山開成学園の概要

Ⅱ－１ 法人名及び組織

法人名：学校法人 郡山開成学園
代表者：理事長 関口 修

■組織

郡山女子大学 : 学長 関口 修
郡山女子大学短期大学部 : 学長 関口 修
郡山女子大学附属高等学校 : 校長 佐々木貞子
郡山女子大学附属幼稚園 : 園長 賀門 康博

Ⅱ－２ 所在地

〒963-8503 福島県郡山市開成3丁目25番2号

Ⅱ－３ 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者 / 郡山開成学園 法人事務局 管財部
部長 緑川 洋一 (環境委員会委員長)
TEL : 024-933-1955
FAX : 024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp
環境委員会事務局 / 郡山開成学園 法人事務局 管財部
係長 安斎 文明
TEL : 024-933-1955
FAX : 024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

Ⅱ－４ 学園規模

学 生 数 (大 学 ・ 短 大)	865 人
生 徒 数 (附 属 高 校)	479 人
園 児 数 (附 属 幼 稚 園)	152 人
教 職 員 数	188 人
敷 地 面 積	190,569㎡ (57,647 坪)
延 べ 床 面 積	50,948㎡ (15,412 坪)

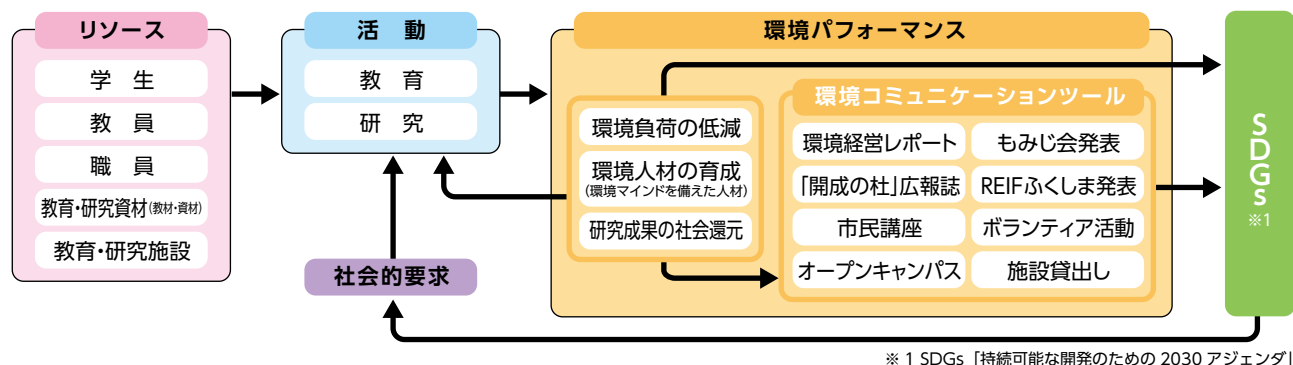
(令和2年5月1日現在)

Ⅱ－５ 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要

区分	学科・専攻等		取得できる免許・資格
大学 大学院	人間生活学研究科 新しい時代には、新しい学問が要求されます。 「人間看護」の理念を中心に、人間生活について総合的かつ専門的に学びます。		●中学校及び高等学校専修免許状（家庭）
大学 家政学部	人間生活学科 ※ 2021 年度人間生活学科より名称変更 ※申請中 ■生活総合コース 自らの生きる地域や社会で活躍・貢献できる企業・教員・公務員等の職業を選択でき、卒業生は幅広い就職先で活躍中です。		●高等学校教諭一種免許状（家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）
	■福祉コース 社会福祉士、介護福祉士資格の両方を持った福祉の専門家を育てます。		●社会福祉士（受験資格） ●介護福祉士（受験資格） ●高等学校教諭一種免許状（福祉・家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）
	■建築デザインコース 女性の感性を活かして、自然と共生可能な空間を美しく設計し、創造できる女性建築士を育成します。		●一級及び二級建築士（受験資格） ●福祉住環境コーディネーター ●商業設備士 ●高等学校教諭一種免許状（工業・家庭） ●中学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養学科 食品の安全性と健康維持をはかる管理栄養士を養成。 社会や食生活の多様化・国際化に対応できる総合的な指導者を目指します。		●管理栄養士（国家試験受験資格） ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者と食品衛生監視員（任用資格）
短期大学部	健康栄養学科 健康で豊かな食生活をすすめる「栄養士」と、食品業界にかかわる「フードスペシャリスト」を養成。人々の健康をサポートする食と栄養の知識と技術を身につけます。		●栄養士免許 ●管理栄養士国家試験受験資格（実務経験 3 年） ●フードスペシャリスト受験資格 ●専門フードスペシャリスト受験資格
	幼児教育学科 ■幼児教育コース 幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することができます。多彩なフィールドワークを通して実践力を養い、子どもに寄り添える保育者を目指します。		●幼稚園教諭二種免許状 ●保育士資格
	■チャイルド・ミュージックコース 音楽に関する専門的な知識や技術を学び、より豊かな音楽表現力を養い音楽の美しさや楽しさを伝えることができる保育者を目指します。		●幼稚園教諭二種免許状 または ●保育士資格
	地域創成学科 地域連携教育を中心とした多様な学びにより創造力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけます。		●文化・歴史系：司書、学芸員補（任用資格） ●アート＆デザイン系：色彩士検定、Illustrator、Photoshop、Web クリエイター ●ビジネス・情報系：情報処理士、IT パスポート、MOS 検定、日商 PC、ICT プロフィシエンシー検定、社会福祉主事（任用資格）
附属高等学校	専攻科 文化学専攻 人間の生きた証しである歴史の知識を体系化、深化させるとともに豊かな人間性を培い、総合的な判断力を養います。		●学士（文学）（大学改革支援・学位授与機構） ●学芸員（任用資格）
	普通科 個々の特性に合わせて、全教科にわたって幅広く学習します。1 年次は、共通カリキュラムで学習し、基礎学力の充実を図ります。2 年次からは、自分の進路や適性に合わせて、I 型（文系）、II 型（理系）に分かれて学習します。		
	音楽科 一般教科目を精選し、専門課程を強化しながら、各専攻（ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽）に分けて、音楽の才能教育を行う県内唯一の学科です。		
	美術科 絵画、工芸、デザイン等の専門知識を深め、美に対する感覚と技術の向上を目指す県内唯一の学科です。		
附属幼稚園	食物科 栄養、食品、食品衛生等の専門知識や高度な調理技術、技能を身につけ、食文化の継承者として地域社会に貢献する調理師を育てます。		●調理師免許
	年長組 (5 歳児)	やなぎ組 まつ組	●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おと・うごき・ことば教室、英語教室、体育教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。
	年中組 (4 歳児)	さくら組 つつじ組	
	年少組 (3 歳児)	たんぽぽ組 すみれ組	
	2～満3歳児	れんげ組 つくし組	

Ⅲ. 郡山開成学園における環境マネジメント

Ⅲ－１ 環境パフォーマンスとその関連要素



Ⅲ－２ 環境への取組分野

大項目	中項目
1. 事業活動へのインプットに関する項目	1) 省エネルギー 2) 省資源 3) 水の効率的利用及び日常的な節水 4) 化学物質使用量の抑制及び管理
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止 2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理 3) 排水処理 4) その他生活環境に係る保全の取組等
3. 製品及びサービスに関する項目	1) グリーン購入 2) サービスにおける環境配慮
4. その他	1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組 2) 環境コミュニケーション及び地域貢献 3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体に当たっての環境配慮

Ⅲ－３ 環境への負荷とその関連要素

環境への負荷		もとななる活動・設備	
二酸化炭素排出	購 入 電 力	空調、照明、〇A機器、教育研究機器	
	化石燃料	灯油	暖房（体育館）
		A 重油	ピークカット発電
		都市ガス	空調、厨房
		LP ガス	空調、風呂
		ガソリン	学園車両等
		軽油	園児送迎車両等
廃 棄 物 排 出	一 般 廃 棄 物	白上質紙	教育、研究
		新聞紙	図書館等
		段ボール	納入品包装
		その他の紙	シュレッダー、雑誌
		缶	自動販売機
		ペットボトル	自動販売機
		生ゴミ	学生食堂、調理実習、寮給食
	産業廃棄物	汚泥	グリストラップ
		金属くず	廃自転車
		廃食用油	調理実習
	特別産廃	廃油	実験実習
		廃酸、廃アルカリ	実験実習
水使用		トイレ、手洗い、飲料	
化学物質		実験、実習	
物質使用（コピー用紙）		教育研究	

Ⅲ－４ 環境マネジメントシステム

■エコアクション 21 認証・登録



■エコアクション 21 とは

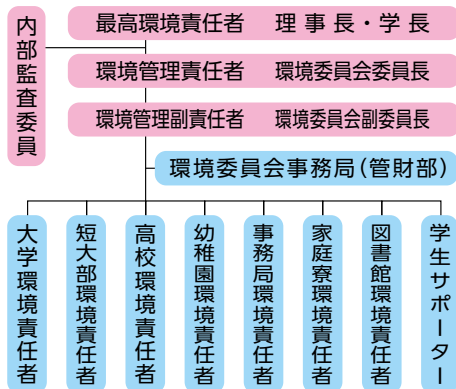
エコアクション 21 認証・登録制度は、広範な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション 21 ガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度である。

本学園は 2004 年 12 月 24 日教育機関では全国初となるエコアクション 21 認証・登録を受け 2019 年 12 月 4 日に 8 回目の中間審査を完了した。



全組織・全活動

■実施体制



■役割

最高環境責任者 (理事長・学長)	- 環境方針を定め、教職員に周知する。 - 環境方針を毎年 1 月に見直し、必要があれば改訂する。 - EA21 を効率的に実施するために環境委員会、環境委員長、副委員長、及び環境委員の任命を行い実施体制を構築し、役割と責任を定め、全教職員に周知する。 - 毎年 3 月に実施体制を見直し、必要に応じて変更を行う。 - 代表者は毎年 1 月に前年度の EA21 の取組状況を評価し、全体的な見直しを行い、修正が必要な場合には環境委員会委員長に指示を行う。(年 1 回)
内部監査委員	- 毎年 11 月に環境経営システムが EA21 ガイドライン要求事項に合致しているか検証する。 - その環境経営システムに有効性があるか、また、環境経営システムに定められている活動内容が環境方針、環境目標の達成に適切なものとなっているか検証する。 - 内部監査チェックリストにより行う。
環境委員会 (委員長、副委員長、委員)	- 環境方針、環境への負荷及び環境への取組状況のチェック結果を基に環境目標を策定し、達成のための活動を行う。 - 毎年 1 月に前年度の達成状況を把握・評価し、必要により見直しを行う。 - 毎年 1 月に環境目標を達成させるための単年度ごとの環境活動計画を作成し、実行する。 3 ヶ月ごとに実施状況と実績を把握し、評価する。 - 実施状況に問題がある場合は是正処置を行い、次年度の計画策定に反映させる。
環境委員会事務局 (管財部)	- 毎年 1 月に前年度の事業活動に伴う環境負荷を調査し、「環境への負荷の自己チェック表」を完成させ、見直しをする。 - 毎年 1 月にチェック表による法令等の遵守状況を確認する。 - EA21 を適切に実行するために EA21 の意識と概要の教育及び、必要な場合は訓練を実施する。 - 毎年環境活動レポートを作成し、理事長、学長の確認を得て公表する。 - EA21 の実施に必要な文章を作成し、保管する。 - EA21 の取組に係る記録等を作成する。 - 作成された記録を集め、整理し、保管する。
学生サポーター (ケチュラライフスタイル部:以下 NLS 部) (郡山女子大学エコレンジャー)	- NLS 部員は環境委員会サポーターとして環境活動に協力する。 - 郡山女子大学エコレンジャーは eco 検定受験対策講座のサポーターとして環境委員会に協力する。

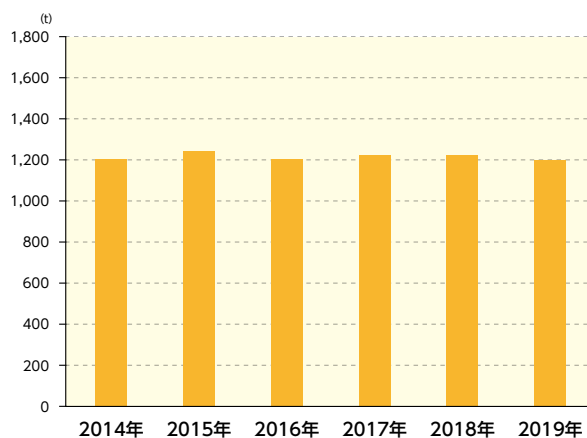
Ⅳ. 環境目標及び環境活動計画

Ⅳ－１ 2019 年～ 2021 年中長期環境目標

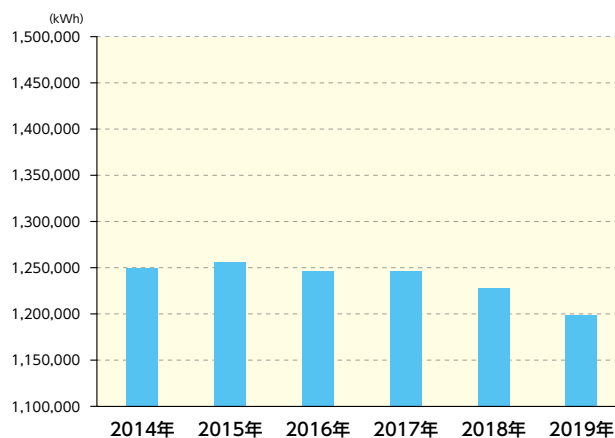
本学園は、以下7つの主項目に対し、目標値を掲げて環境活動に取り組んでいる。

項 目		単位又は区分	基準年実績	2019 年目標値	2020 年目標値	2021 年目標値	
			2018 年 1 月～ 12 月	2019 年 1 月～ 12 月	2020 年 1 月～ 12 月	2021 年 1 月～ 12 月	
エコマインドを持った 学生、生徒の育成		eco 検定 受験講座	受講者数 15 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	
		環境関連図書購 入数	環境関連図書購 入数 25 冊	25 冊	25 冊	25 冊	
		学生、生徒の環 境関連サークル 活動支援	NLS 部 部員数 35 名	35 名	35 名	35 名	
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量		kWh	1,214,356	1,202,212 (-1.0%)	1,190,190 (-2.0%)	1,178,288 (-3.0%)
	化 石 燃 料 使 用 量	都市ガス	m ³	49,013	48,522 (-1.0%)	48,037 (-2.0%)	47,557 (-3.0%)
		LP ガス	m ³	93,588	92,652 (-1.0%)	91,725 (-2.0%)	90,808 (-3.0%)
	CO ₂ 排出量		Kg-CO ₂	1,240,812	1,228,403 (-1.0%)	1,216,119 (-2.0%)	1,203,958 (-3.0%)
水使用量		m ³	33,826	33,487 (-1.0%)	33,152 (-2.0%)	32,821 (-3.0%)	
紙使用量		kg	12,082	11,961 (-1.0%)	11,841 (-2.0%)	11,723 (-3.0%)	
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)		kg	105,370	104,316 (-1.0%)	103,273 (-2.0%)	102,240 (-3.0%)	
化学物質の適正管理		—	化学物質の 適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	
グリーン調達の推進		取扱消耗品 (280 品目) のグリーン 適合品	270 品目 (96.4%)	270 品目 (96.4%)	271 品目 (96.8%)	272 品目 (97.1%)	

(電気事業者名：(株)エネット、実排出係数 0.418kg-co₂/kWh)



二酸化炭素排出合計



電力消費

Ⅳ－２ 2019 年環境活動計画

方針	目 標	目標達成手段	責任部門	スケジュール											
			実施部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
エコマインドを持った 学生、生徒の育成	各部門において、環境マインドを高めるための取組を推進していく	各環境委員による積極的なリーダーシップのもと実施	環境委員長 ----- 各環境委員					開始					開始		
排出量削減 二酸化炭素	電力の削減 電力量 12,143kWh 2018年度基準年比 削減率－1.0% 都市ガス、LP ガスの削減 都市ガス 490㎡ LP ガス 935㎡ 2018年度基準年比 削減率－1.0%	・節電対策 ・BEMS による見える化（本部キャンパス） ・不要照明の消灯 ・待機電力の削減 ・クールビズ運動（冷房 28℃） ・ウォームビズ運動（暖房 20℃）	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明導入 実施 実施 策定	運用										
排出量削減 廃棄物	一般廃棄物の削減 一般廃棄物量 1,053kg 2018年度基準年比 削減率－1.0%	・一般廃棄物削減目標説明 ・学内 LAN の有効利用（文書の電子化 E-mail） ・裏白使用、両面コピー、印刷の徹底 ・分別の徹底による再資源化量増加	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施											
節 水	水の削減 水使用量 338㎡ 2018年度基準年比 削減率－1.0%	・水削減目標説明 ・トイレ擬音装置使用の徹底 ・無駄水削減の徹底 ・漏水の早期発見	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施											
紙削減 紙使用量	紙の削減 紙使用量 120kg 2018年度基準年比 削減率－1.0%	・学内 LAN の有効利用（文書の電子化 E-mail） ・裏白使用、両面コピー、印刷の徹底	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施											
グリーン 購入	消耗品 280 品目をグリーン購入法適合品に変更する	・消耗品のグリーン購入 ・家電機器、OA 機器等はエネルギー効率の高い機器を購入	管財部						○						
化学薬品 管理	PRTR 対象物質並びに毒物、劇物の保管、管理を適正に行う	・年 2 回 PRTR 法対象物並びに毒、劇物の保管、管理状況調査を行う	環境委員会 管財部						○				○		
年間活動 計画	○ 環境教育 ○ 緊急事態対応訓練 ○ 環境関連法規等の遵守評価 ○ 代表者による評価と見直し ○ 環境活動レポート	環境目標、活動計画の周知 安全防災訓練 法令遵守 第三者評価 作成と地域事務局への提出	環境委員会事務局 ----- 防災管理委員会	○											○

実績：●（実践）月次、累計とも達成○／月次又は累計が達成△／月次、累計とも未達成×

・環境管理責任者は 3ヶ月ごとに確認し、取り組みに問題がある場合には指示を行う。

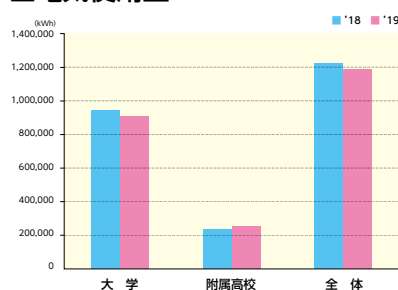
・代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。

V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況

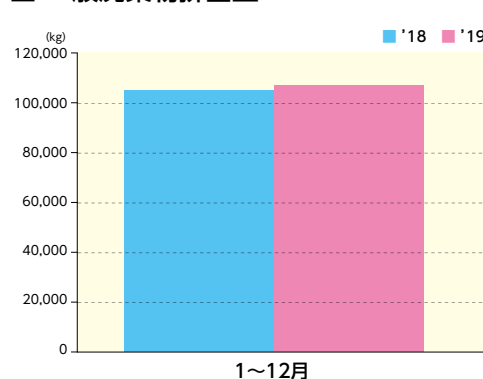
(1) 環境負荷の対前年詳細比較

■電気使用量



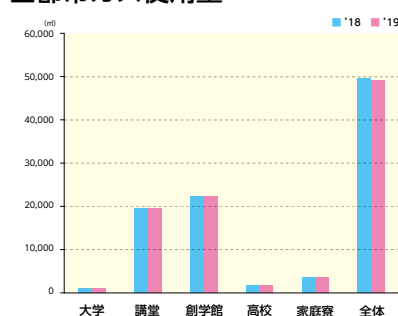
評価 電気使用量は対前年度省エネ対策(蛍光灯→LED化)により39,642kWh(-3.23%)減少

■一般廃棄物排出量



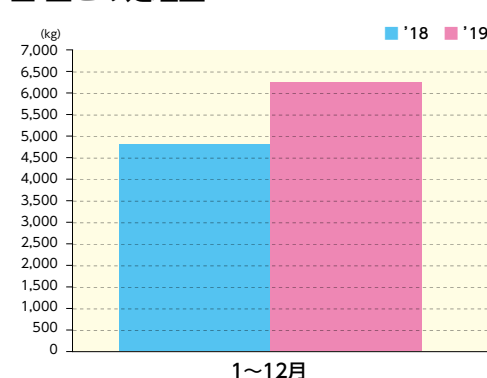
評価 リサイクルのマンネリ化により、一般廃棄物量の対前年度比1,970kg(+1.87%)の増加

■都市ガス使用量



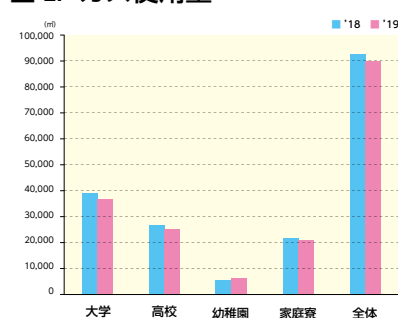
評価 都市ガス使用量は、学生生徒の増加に伴い一部増加したが、全体的には減少により、対前年比1,536m³(-3.09%)の減少。

■生ごみ処理量



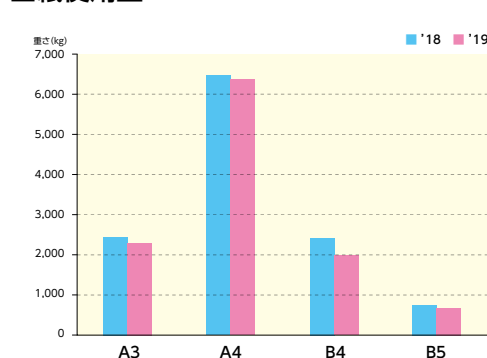
評価 学生食堂フェリーチェの本格稼働と寮生増加により、生ごみ処理量が対前年度比1,678kg(+36.24%)の大幅増加

■LP ガス使用量



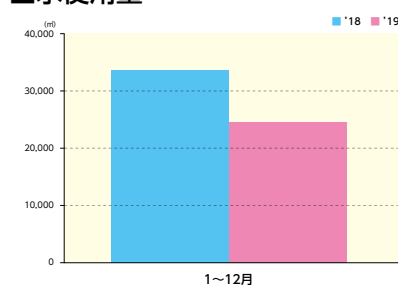
評価 冬季の暖冬のため、LPガス使用量は対前年比3,843m³(-4.11%)の減少

■紙使用量



評価 文書の電子化等紙使用の減少により、対前年比688kg(-5.69%)の減少

■水使用量



評価 節水型トイレの増加並びに漏水の早期発見に伴い、水使用量の対前年度比9,434m³(-27.89%)の大幅減少。

(2) 環境目標の達成状況評価

2019 年における環境目標の達成状況は、下表のとおり。エコマインドを持った学生、生徒の育成については、eco 検定受験対策講座、NLS 部員数の増員に係る環境目標は達成できなかった。環境負荷の削減に係る環境目標については、CO₂ 排出量・水使用量・紙使用量は環境目標を達成したが、一般廃棄物排出量は対前年比を超過した。又、化学物質の適正管理、グリーン調達推進の推進は環境目標を達成した。

表：環境目標及びその達成状況（期間 2019 年 1 月～12 月）

項 目		単位又は区分	基準年実績	2019 年目標	2019 年実績	達成状況 達 成 ○ 未達成 ×
			2018 年 1 月～12 月	2019 年 1 月～12 月	2019 年 1 月～12 月	
エコマインドを持った 学生、生徒の育成		eco 検定受験講座	受講者数 15 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 5 名 合格者数 0 名	×
		環境関連図書購入数	環境関連図書数 25 冊	25 冊	25 冊	○
		学生、生徒の環境関連 サークル活動支援	NLS 部員数 35 名	35 名	30 名	×
排出量の削減 化学物質の削減	電力使用量	kWh	1,266,623	1,214,356 (－1.0%)	1,186,981 (－3.2%)	○
	都市ガス	m ³	49,569	49,073 (－1.0%)	49,027 (－1.1%)	○
	LP ガス	m ³	43,588	92,652 (－1.0%)	89,749 (－4.1%)	○
	CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂	1,240,812	1,228,403 (－1.0%)	1,217,934 (－1.8%)	○
水使用量		m ³	33,826	33,487 (－1.0%)	25,116 (－25.7%)	○
紙使用量		kg	12,082	11,961 (－1.0%)	11,394 (－5.7%)	○
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)		kg	105,370	104,316 (－1.0%)	107,340 (+1.9%)	×
化学物質の適正管理		－	化学物質の 適正管理	年 1 回の化学物質の保管 状況を適正に調査し、 厳格に管理を行った	年 1 回の化学物質の保管 状況を適正に調査し、 厳格に管理を行った	○
グリーン調達の推進		取扱消耗品 (280 品目) のグリーン適合品	270 品目 (96.4%)	270 品目 (96.4%)	270 品目 (96.4%)	○

(3) 取組結果の評価

- エコマインドを持った学生、生徒の育成
 - eco 検定受験講座
平成 24 年に再開した eco 検定受験講座の見直しを行い、演習を中心とした方式として、5 名が受講し 1 名が第 26 回 eco 検定試験を受験したが不合格のため環境目標を達成できなかった。これは台風 19 号の影響により、学生の応募ができなかったことによる。
 - 環境関連図書購入数は、25 冊で対前年度比同数となり環境目標を達成した。これは図書館において環境関連図書購入を優先的に行なっているためである。
 - 学生、生徒の環境サークル活動支援
NLS 部部員数を 35 名に増員する目標に対して、部員数は 30 名で、環境目標を達成できなかった。これは台風 19 号の影響により休校が多く、部員募集が円滑に行えなかったためである。
- 二酸化炭素排出量の削減
二酸化炭素排出量に係る環境目標を、基準年実績 1,240,812kg-CO₂ の 1.0%減の 1,228,403kg-CO₂ 以下とした。実績は、1,217,943kg-CO₂ で対前年比－1.8%の減少となり環境目標を達成できた。これは、主要校舎の各講義室の蛍光灯照明を LED 照明に更新する LED 化五カ年計画の成果である。
- 水使用量の削減
水使用量に係る環境目標を、基準年実績 33,826m³ の 1.0%減の 33,487m³以下とした。実績は、25,116m³で対前年比－27.7%の大幅減少となり環境目標を達成できた。これは節水型トイレの増加並びに学内の老朽化した給水管からの漏水の早期発見について取り組んだ成果である。
- 紙使用量の削減
紙使用量に係る環境目標を、基準年実績 12,082kg の 1.0%減の 11,961kg 以下とした。実績は、11,364kg で対前年比－5.7%の減少となり環境目標を達成できた。これは文書の電子化等の推進の成果である。
- 一般廃棄物排出量の削減
一般廃棄物排出量に係る環境目標を、基準年実績 105,370kg の 1.0%減の 104,316kg 以下とした。実績は、107,340kg で対前年比、+1.9%の増加となり環境目標を達成できなかった。これはリサイクルのマンネリ化により増加が続いているからである。
- 化学物質の適正管理
化学物質に係る環境目標を、毒物・劇物、向精神薬、核原料物質、病原性微生物、PRTR 対象物質、危険物等化学物質の保管状況を各関係法に則り厳格に管理している。
実績は、化学物質取扱者と円滑なコミュニケーションを取りながら各関係法に則り厳格に管理する事ができ環境目標を達成できた。これは管財部及び環境委員会において関係教員の協力を得て厳格に法令遵守を行ったからである。
- グリーン調達推進
グリーン調達に係る環境目標を、購買部取扱い消耗品類 280 品目中 270 品目 (96.4%) をグリーン購入適合品にすることとした。実績は、270 品目 (96.4%) がグリーン購入適合品となり、環境目標を達成した。これは管財部と購買部の有限会社佐藤和司商店が一致協力のもとグリーン購入を推進した事による。

(4) 代表者による評価と見直し

降矢事務局長より、エコアクション 21 認証登録後 16 年を経過し、令和元年度に問題点を洗い出し対応するよう指示有。

V-2 トピック



■ 家政学館 9 実験・実習室 蛍光灯照明を LED 化 (5 ヶ年計画の 3 年目)

家政学館 9 実験・実習室 蛍光灯照明を LED 化することにより、家政学館の電気使用量を 31%削減することに成功した。



■ 附属幼稚園大ホールトイレ及び管理棟 1 階トイレの洋式化工事 (2 ヶ年計画の 2 年目)

附属幼稚園大ホールトイレ及び管理棟 1 階トイレを洋式化 (節水型) にすることにより、水使用量の削減が図られた。



■ 附属高等学校 普通教室西棟生徒用トイレの洋式化工事 (3 ヶ年計画の 2 年目)

附属高等学校 普通教室西棟生徒用トイレを洋式化 (節水型) にすることにより、水使用量の削減が図られた。



V-3 各部門の取組み

■ 郡山女子大学

● 人間生活学科 生活総合コース



生活者である私たち一人一人が環境負荷の少ない生活を送ることが求められている。生活の諸科学を学ぶ学生として、授業の中で環境負荷低減に向けた取り組みをしているとともに、環境保全を意識した行動を家庭で実践することをめざしている。

『被服学実験』

洗濯後の排水、コメのとぎ汁のCOD（化学的酸素消費量）をパックテストにて測定し、排水の汚れに対して理解を深めている。家庭排水や調味料を流しに直接流すことは、汚れを流すことにつながり、何気ない生活上の行動が環境や排水の処理に大きな影響を及ぼしていることを知る。生活になくしてはならない「水」だからこそ、大切に上手に利用・活用し、継続的な使用ができるよう考える。



COD パックテストの様子

『調理学演習』 ごみの軽量化

できるだけごみの重量を少なくするために、しっかりと水気を切ることを学生一人ひとりが実践している。



しっかりと水気を切る

『エコクッキング』

だしをとった後のかつお節や煮干し、昆布は教員や手のあいている学生が佃煮にする。食材は最後まで無駄なく使いきることを教えている。



だしをとった後の煮干しの佃煮

『資源の節約』

フライパンの油汚れは紙で拭き取ったあとに洗う、また食器や器具を洗浄する際は、漬け置き洗いや洗い桶を使用し節水することを心がけている。



台所からの水質汚染を考える



洗い桶を利用し節水

● 湖美来基金水環境保全活動支援事業 裏磐梯湖沼の水環境と生物調査について



昨年度、福島県西郷村の堀川ダムで特定外来生物ウチダザリガニを捕獲する企画（福島県主催）に参加する機会があった。ウチダザリガニは北海道、栃木県、滋賀県、長野県、千葉県などの河川や湖沼に移入分布しているとの報告がある。福島県では裏磐梯湖沼地域の小野川湖、檜原湖、秋元湖ですでに生息が確認されており、駆除のために様々な取り組みが行われている。繁殖力の強いウチダザリガニの分布が、裏磐梯湖沼地域から猪苗代湖地域に広がっているかどうかについて調べてみたいと思い、裏磐梯湖沼地域と猪苗代湖の水質調査も併せて生物調査を実施した。ウチダザリガニはすでに裏磐梯湖沼地域で捕獲されているが、猪苗代湖で捕獲された報告はない。

今回の調査では数は少ないがウチダザリガニが長瀬川で3度合計8匹捕獲された。またウチダザリガニは水温が低い場所を好むことが知られているが、今回の調査でも水温が高い裏磐梯湖沼よりも水温が低い長瀬川で捕獲された。また、ウチダザリガニは酸化還元電位が高い環境を好んでおり、その理由として、細菌が繁殖しているような地域よりも動植物捕食性が強いとめと考えられた。今後もウチダザリガニの分布を継続して調査していきたい。



写真1 長瀬川で捕獲されたウチダザリガニ

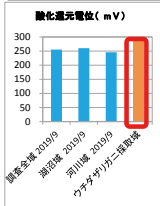
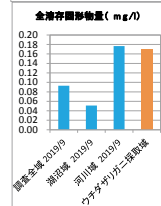
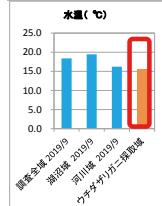
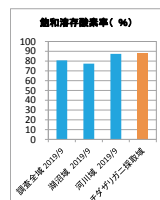
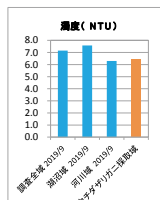
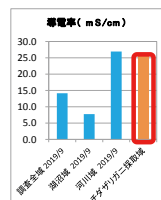
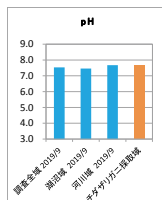


図1 水質調査の結果（調査全域、湖沼域、河川域、ウチダザリガニ採取域）

■ 郡山女子大学附属幼稚園

● 幼稚園の取り組み



○プランターで野菜の栽培



○はじめての田植えと収穫の喜び



○学園の梅を使って梅漬け



○さつまいものお世話・収穫



○子どもたちにとっては「自然」も「雑材」も遊び道具！



○節電



○コピー用紙の再利用



■ 郡山女子大学附属高等学校



● 高校における環境活動…整備委員会が中心となって自発的にできるエコ活動について話し合い、全校生徒に呼びかけ、取り組んできた。

①節水・節電…ポスターによる啓発やLED照明の導入



②リサイクル活動…紙、空き缶、ペットボトルのリサイクル、エコキャップ運動



③食育活動…農業体験、減るしいレシピコンクールの参加



④環境整備



⑤地域の行事への参加



■ 家庭寮

● 家庭寮の取り組み2019

下記項目について寮生・職員共に協力し取り組んでいます。



■ 寮生数

寮生内訳	1号館	2号館	合 計
大学生	17 名	15 名	32 名
短大生	19 名	17 名	36 名
高校生	—	25 名	25 名
計	36 名	57 名	93 名

節電・節水の呼びかけ

- ・ 掲示等による
- 必要時以外こまめに消す
- 水道を出したままにしない（1号館）



「エコキャップ収集運動」への参加

今年度で 10 年目となる

約 2,000 個収集



ゴミの分別

- ・ 分別の呼びかけ
- 掲示等による



古紙回収

回収ボックスを設置し分類・回収



環境対策

- ・ 寮内美化（毎日の清掃・大掃除の実施）
- ・ 屋内消毒、排水溝の清掃（業者実施）
- ・ 玄関前プランター植栽



安全管理

- ・ 避難訓練：春（早朝）実施
- ・ 空間線量測定、食品検査の実施
- ・ 災害時対応備蓄（食品・飲料水）



エコアンケートの実施

集計結果	1 位	2 位	3 位
「エコ」と聞いて思いつくイメージは？	節 電 	リサイクル 	エコバッグ・節水
実際に行っているエコは？	ゴミの分別 	エコキャップ 	エコバッグ
寮でもっと取り組みたいエコは？	ゴミの分別 	グリーンカーテン 	エコキャップ

■ 環境委員会事務局・ナチュラルライフスタイル (NLS) 部



● 森林自己学習支援事業 「こおりやま開成の杜復活プロジェクト」

郡山市熱海町石筵にある総合教育園を舞台に、NLS 部の学生が森林の生態系（巣箱、赤外線カメラの設置等）調査、放射線量測定、きのこ採取等により、森林での活動プログラムづくりのための調査を行った。



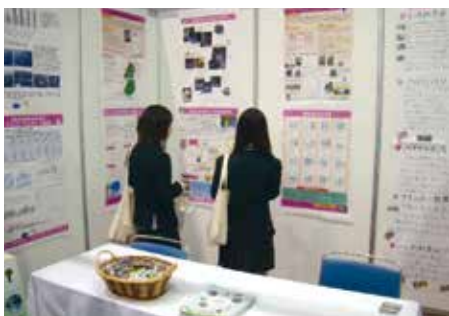
● プロジェクトDへの参加協力

日本環境協会が、東日本大震災以降、津波により流失した森林面積を回復させるために活動している「プロジェクト D」に環境委員会、NLS 部が全面的に協力している。



● REIF2019（福島再生可能エネルギー産業フェア2019）

10月28日、29日の両日、REIF2019へ出展し、本学の太陽光パネルの設置状況や省エネ活動、NLS 部の活動等について展示発表を行った。



■ 開成の杜の樹木生育状況について



調査日：2019.4.11

開成の杜	植樹年月日	樹種	本数	樹高	空間放射線量
鞍手山	平成 8 年 5 月	ヒノキ	5,100 本	※積雪のため視察中止	
高土山	平成 13 年 6 月	スギ	4,300 本	約 15 m	0.55 μ Sv/h
石 筵	平成 15 年 5 月	ヒノキ	7,000 本	約 9 m	0.22 μ Sv/h
安子ヶ島	平成 20 年 5 月	ヒノキ	5,000 本	約 8 m	0.20 μ Sv/h



高土山



石筵



安子ヶ島

次年度は、石筵開成の杜の除伐作業を予定しています。

V-4 緊急事態対応

■ 避難訓練（福島県沖で大地震が発生し震度 5 強の大地震が 15 秒後に到着する）

福島県沖で大地震が発生し、緊急地震速報装置では、震度 5 強の大地震が 15 秒後に到着する。激しい振動により家政学館 1 階調理実習室より出火したとの想定のもと、①大地震発生時の身の安全確保訓練並びに②出火時の避難訓練（建屋毎の分散避難）を行った所、短時間（4 分～8 分）で避難完了した。避難完了後、学長等による講評を行い、解散した。



■ 普通救命講習会

SECOM 指導者による AED 操作訓練並びに心肺蘇生法を 2 回に分けて開催した。



V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動



■ 本宮市との包括連携協定締結

平成28(2016)年11月3日に本宮市と人材育成や人材確保、幼児教育や文化、芸術、健康福祉の増進など5項目について包括連携協定を締結し、高齢者福祉、幼児教育分野を中心に継続的な活動を行っている。



いきいき交流事業



本宮市民元いきいき
応援プラザ(えばか)にて

■ 葛尾村との包括連携協定締結

平成28(2016)年12月6日に葛尾村と震災からの復興に関する包括連携協定を締結し、六次化商品の開発を継続的に進めるとともに、村内行事へ積極的に参加している。



エゴマ刈取作業



盆踊り

■ 福島さくら農業協同組合との包括連携協定締結

平成28(2016)年度にJA福島さくらと農業の振興や教育及び人材育成に食文化の振興、健康、福祉の振興など5項目について包括連携協定を締結し、相互に緊密に連携し、双方の資源を有効に活用した協働による活動を推進している。令和元(2019)年度には学生考案弁当の販売、カントリーエレベーターの壁画作成等の協力が行われている。



学生が考案した弁当



カントリーエレベーター
壁画

■ 小野町との包括連携協定締結

平成29(2017)年8月21日に小野町と子育て、人材育成、健康栄養及び福祉の増進など6項目について包括連携協定を締結し、子育て、地域創生の分野にて協力を行っている。



おのまわがばたんけんた
いの素敵な冒険 活動風景



住民ワークショップ

■ 古殿町との包括連携協定締結

平成30(2018)年8月27日に古殿町と地域創成、健康栄養・福祉の増進、子育て環境の向上、地域産業の振興、芸能・文化の向上、人材育成・確保の6項目について包括連携協定を締結した。公民館行事への協力を行うとともに、六次化商品の開発をめざしている。



クラフト教室



料理教室

■ 郡山市との事業連携

平成21年3月13日に本学は、郡山市子ども総合支援センター「ニコニコこども館」実施事業との連携協定を締結し、学生が「ニコニコこども館まつり」、ハンドベル演奏等のボランティア活動を継続している。



ニコニコこども館まつり



■ 福島民報社との事業提携

平成29(2017)年2月に福島民報社と連携協力協定を締結し、新聞等を活用したキャリア教育の支援、地域課題等に関する共同調査及び研究、人材交流及びインターンシップの実施、教育研究のための新聞記事情報の活用支援等の分野において連携協力を進めている。

■ 鏡石町との連携

令和2(2020)年2月12日に鏡石町と食と健康の分野に関する連携協定を締結した。町内の高齢者を対象とした食事と栄養に関する調査を実施し、食生活等の改善策を提案していく。



連携協定締結式

■ 大学施設の開放

東日本大震災以降、市内の公共施設が避難所等として使用できないことを受け、地域貢献の観点から、本学施設を学園休業日に外部団体の大会・イベント・検定試験会場等として幅広く大学施設の貸し出しを行っている。

〈過去3年間の利用者数〉

	2017年	2018年	2019年
利用者数	27,721人	24,080人	20,357人



たなばたコンサート

■ 生涯学習講座

本学では、「学ぶことは生涯の仕業」の理念のもと、地域女性を対象として科目の開放を短期大学と共同で実施している。この生涯学習講座としての科目開放は、令和元(2019)年度で35年目となる。令和元(2019)年度には、前期に16講座が開放され延べ32人が受講し、後期に14講座が開放され延べ30人が受講した。

■ 国際交流特別講座

本学では21世紀の国際化に対応するため、英語・中国語・日本語、それぞれのことばを楽しく学ぶことを通して、ことばと文化への理解を深め、コミュニケーション能力を高め、あわせて本学園の国際性の発展を図ることを目的として、平成14(2002)年度前期より「国際交流特別講座」を開講している。令和元(2019)年度には前期31人、後期29人が受講した。

■ KGCサマーリフレッシュプログラム(教員免許状更新講習)

平成19(2007)年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21(2009)年度より教員免許状更新講習制度が開始された。本学では平成21(2009)年度より、KGCサマーリフレッシュプログラム(教員免許状更新講習)を開講している。毎年バラエティに富んだ幅広いプログラムと熱心な本学教員の講義は、免許更新を迎えた教員の多くから、単に知識の再確認に留まらず、改めて学ぶ喜びを体得したと好評を得ている。令和元(2019)年度も「中高教員向け講座」32人、「幼稚園教諭向け講座」121人の合計153人が受講した。

■ 地域連携推進室の設置

平成28(2016)年度に、「産学官との連携強化」、「地域活性化」、「施設の一般開放」を推進する窓口として「地域連携推進室」を法人事務局 管財部内に設置して、地域への人的資源の提供や、教育成果を還元するための橋渡しを行っている。



市民講座



市民フォーラム

■ 公開講座

令和元(2019)年度、一般市民を対象とした市民講座、市民フォーラムが各1回開講された。尚、食物栄養学科主催の市民フォーラムは、現在までに16回実施されている。

■ 産学連携・受託事業

令和元(2019)年度の本大学・短大が関係した産学連携・受託事業は、①富岡町杉本家住宅(旧多胡藩陣屋)の建造物調査、②国見町における石造建造物・石造技術調査、③福島建設業協会建設現場見学会、④国見町石工フェス in 石蔵における展示解説、⑤氷蔵庫における農林水産物の保存に関する共同研究(㈱以輪富)、⑦減塩しょうゆの活用による塩分摂取量低減及び減塩しょうゆの味慣れに関する共同研究(㈱キッコーマン)、⑧チャレンジふくしま県民運動における企業社員食堂のヘルシーメニューの開発、⑨ビール園と連携し、店内レストランで学生考案ランチメニューの提供(㈱アサヒビール園)、⑩水未来基金水環境保全活動支援事業における猪苗代湖鬼沼周辺の里山の自然環境観察会、⑪音楽関係学生の自治体を含む地域コンサートへの出演等多岐に亘っている。



建設現場見学会



クリスマスハンドベルコンサート



石工フェス in 石蔵
[石蔵ミニコンサート]

Ⅵ. 次年度の取り組み

- (1) エコマインドを持った学生生徒の育成(eco検定対策講座の開催等)
- (2) 地域貢献(環境に関するボランティア活動への参加・学園施設の開放等)
- (3) 環境負荷の低減(主要校舎等のLED化)

Ⅶ. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

環境関連法規等の遵守状況の確認結果及び違反、訴訟等の有無

環境関係法規類			遵守評価 令和元年 5 月		評価	
			監視及び測定		担当	○×
1	毒物及び劇物取締法		特定薬品関係管理状態		環境委員会	○
2	労働安全衛生法		産業医・安全・衛生管理者等		総務部	○
3	消防法		危険物管理・消防用設備		管財部	○
4	廃棄物処理法		一般廃棄物分別及び特別管理廃棄物の処理状態 など、増改築工事時の産業廃棄物処理		管財部	○
5	資源有効利用促進法		パソコン・二次電池等		管財部	○
6	家電リサイクル法		廃棄時確実な引渡し		管財部	○
7	自動車リサイクル法		廃棄時確実な引渡し		管財部	○
8	建設リサイクル法		新築・増築・解体工事発生時 元請け業者との契約事項		管財部	○
9	PCB 処理特措法		郡山市届出・年 1 回確認		管財部	○
10	フロン排出抑制法		フロン回収手続の処理		管財部	○
11	水質汚濁防止法		構造等に関する基準遵守・薬品類定期点検		管財部	○
12	下水道法		定期的な保守点検・清掃		管財部	○
13	水道法		年 1 回貯水槽清掃・点検		管財部	○
14	グリーン購入促進法		毎年 3 月頃確認		管財部	○
15	環境配慮契約法		毎年 3 月頃確認		管財部	○
16	環境保全活動・環境教育推進法		持続可能な社会・意欲の増進		管財部	○
17	食品衛生法		営業許可証の確認		管財部	○
18	省エネ法	エネルギー合理化・自主的	エコアクション 21：環境目標・環境活動計画進捗		環境委員会	○
		トップランナー方式	機器の買替時		管財部	○
19	環境基本法・循環型社会形成推進基本法・温対法・ 文部科学省からの通達		国の施策に協力、温室効果ガスの排出抑制		管財部	○
20	小型家電リサイクル法		使用済小型電子機器等の排出状況を確認		管財部	○
21	麻薬及び向精神薬取締法		向精神薬の登録内容、保管管理確認		管財部	○
22	核原料物質、原子炉の規制に関する法律		核燃料物質（2 種類）の保管、管理確認		管財部	○
23	PRTR 法		第 1 種、第 2 種、特定化学物質の保管管理確認		管財部	○
24	放射性物質による環境汚染への対処に関する法律		事故由来放射性物質による汚染された廃棄物の 保管確認		管財部	○
25	道路交通法		安全運転管理状況確認		管財部	○

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は昭和 24 年の設立以来ありません。

Ⅷ. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査

1. 監査対象	学校法人 郡山開成学園における環境活動	
2. 監査実施日	令和元年 11 月 29 日(金) 14:00 ~ 15:40	
3. 監査担当者	内部監査委員／影山 彌、水野 時子	
4. 監査目的	EA21 更新審査前 内部監査	
5. 監査項目	1. 更新審査時の B 判定 指導事項 1 項目並びに推奨事項 5 項目の是正措置の改善状況確認 2. 内部監査チェックリスト（環境経営システム・環境活動レポート）により確認 3. 事務局より 2019 年環境活動計画書の各目標の達成状況と主たる環境活動の報告 4. 大学、短大、高校、幼稚園、及び家庭寮の各環境委員より各部門における 2019 年の環境活動についてプレゼンテーション 5. 質疑応答、講評	
6. 監査講評	監査委員氏名	講評結果
	影山監査委員長	各部署の熱心な環境活動の取組みに敬意を表する。まさに学園の教育の特色であり、外部の評価も高いものがある。パリ協定により日本政府も地球温暖化対策に取り組んでいるが、昨日過去最大の二酸化炭素排出量 553 億 t のニュースが流れた。まったくなしである。本学においても二酸化炭素排出量の削減には、学園全関係者の理解を得て本腰を入れて取り組まなければならない。環境委員会は中心となって進めてほしい。大学の生物多様性の取組みや幼稚園の幼児期からの取組みも大切である。益々の発展を期待したい。
	水野監査委員	各学校及び各部門の環境委員が中心となり色々な環境活動を実践し、毎年工夫改善を行なっている点が素晴らしい。特に高校は、生徒の主体性を大切にしている。短期大学部は、各学科の取組みとなっており、学生の環境意識がどのように影響しているのか是非確認してほしい。学生の主体的な取組に今後も期待したい。
備 考	 	

(2) 代表者による全体の取り組み状況の評価及び見直しの結果

2015 年以降 SDGs やパリ協定など、持続可能な社会への移行を促進する国際的枠組みが確立され、中長期の時間軸で社会の変化をとらえ、課題に取り組むことが必要になってきている。

本学は、「環境人づくり企業大賞 2019」において、環境大臣賞（地域協働部門賞）を受賞した。評価された取組の内容は、1. 学生、教職員を対象に年間を通じて環境教育を実施し、環境委員会を中心にエコ検定のサポート等を行っている点、2. 環境方針に地域貢献を掲げ、自治体とも連携して地球温暖化防止や省エネ等に貢献している点、3. 産学官との連携強化、地域活性化、施設の一般開放を推進する「地域連携推進室」を設置し、市町村や JA、福島民報社と包括連携協定を締結し、子育て支援等の交流や、全村避難となった葛尾村への人材交流、地元特産品の研究開発支援を行い、JA と風評被害に苦しむ農業を盛り上げる取組などを実施している点が高く評価された。これは、学生、生徒及び教職員の環境保全活動や地域貢献活動への積極的な取組の賜物と思われ、評価に値する。

今後は、地球温暖化防止につながる環境負荷削減の努力は継続しつつ、SDGs（持続可能な開発目標）との関連を強く意識した幅広い活動の展開を図っていくことが重要となる。

学園関係者（学生、生徒、教職員及び保護者）の意思統一を図り、E A 21 の取組の充実発展を確実にを行い、持続可能な社会実現に向けた取組を継続し、さらに発展させていくこととする。

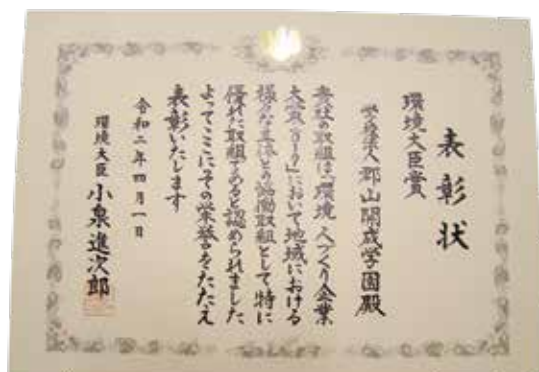
令和 2 年 5 月 28 日

学校法人 郡山開成学園 理事長

開 白 修

(3) 外部評価

環境省が主催する「環境人づくり企業大賞 2019」で、環境大臣賞（地域協働部門賞）を受賞した。



受賞者の皆様

この度、「環境人づくり企業大賞 2019」環境大臣賞を受賞されましたこと、心からお慶び申し上げます。今回、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、表彰式に代えて郵送によるお祝いとさせていただきますことについて、御理解を賜ればと存じます。

さて、受賞者の皆様におかれては、これまで、それぞれの企業や地域において、環境に配慮した活動をリードする人材を育成・輩出し、その活動をバックアップする優れた取組を行ってこられました。環境大臣として、こうした皆様の御功績に対し深く感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

SDGs を達成し持続可能な社会に変革していくためには、あらゆる主体が取り組み、協働することが重要ですが、とりわけ経済社会の基盤である企業は大きな役割を担っています。

今後とも、積極的に環境の視点を経営に取り入れ、新たな企業価値の創造が社会全体の持続可能性の高まりにつながることを期待しています。

結びに、今後の皆様の御活躍と御健勝をお祈りし、私のメッセージといたします。

令和 2 年 4 月

環境大臣 小泉進次郎



地球は、わたしたち現世代の人間だけのものではなく、
わたしたちの子どもや孫の世代を含む未来のすべての世代
の生存に対して責任があるということを認識しましょう。

(世代間公平の考え方より)

